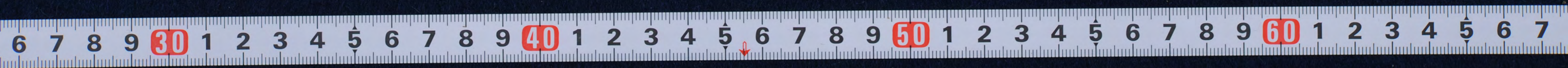


念流羅刀術初字傳授梅田甚三郎後

念流長刀術初学 傳授



念流長刀初學



長刀合

上段

中段

空上段

返刀

折返

乱

雲車

波返

入身躰

太刀合

柄返

刃返

兩断打

太刀合

柄
返

反
反

兩斷打

切先返

糸移

鎗合

身金

面影

朝霧

漪
漣

古
初

十父字合

上
良

表裏

中
段

表裏

下
殷

表裏

上

當流長刀心得心配之事

心得之歌

わきふはれ氣うやも 託も發明は
執事の道をも南無一節

生れ逢ふのうちは多かれど
肝はひとつに保てゝ居つてよ

生れ流すのうゝあゝ多れも
昨ハ今ハ此ノ時ニ在リ

組立家多敷人の方の曲ヲ
自由自在ニ叶ハス多敷

習入形ハ術の流ニ磨ハル
ウチニ在リ

利を多敷ニ求ムルモ
己と爲ル利ニ在リ

多流を執ル深ク守ルハ
此ニ在リ

師の恩を忘ルルハ日月
此ニ在リ

心配之事

彼ハ予敷免許有クモ其人の心を

心得方一ナリ隔々歌ハ先ニ在リ

難刀ハ後ニ在リ勝敵の技ニ在リ

ウチニ在リ其人の度量ニ在リ

ウチニ在リ後ニ在リ腰の力ニ在リ

より先後工夫を——腰のふた

格あつて、斗、打つて道具を使ふ

さうするは是を道具よりさう

敵の力をいふとさう心を移すは

才一 鎗遣

才二 長刀遣

才三 太刀遣

才四 十文字遣

此四躰を集て長刀術とを修ふ四ツ

あを揃て一ツ拍子とあるうとく内外

前後左右のうとく心と手塚或

石等後といふと心と配り日を陰

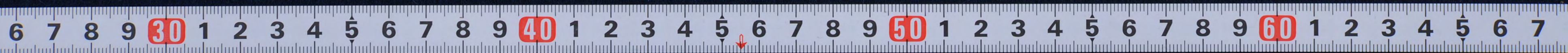
うとく月と横ととも胸の心氣

の術と遣事とある——我形

心穩——て少し油断なく心乃

動さうと大山のうとく心と静気と

配り天摩鬼神とてとある事なく



動さるゝ大山のこゝ心と降気氣を

配り天摩鬼神とてなる事なく

我身と崩さるゝ縁ありて縁

の切長短の槍も長刀に因り

道具あり位と見て位を自然の

術と違ふ——上午にもなる事

なく下午にも侮る事なく——稽

古ハ古なりとも古なりとも稽古と云

心を礼する勢と云る稽古と云る

入身之事

押へ 掛 反ル

懸張誘引消被透圍皆氣口

機先壁ハ水奥影移頭出機先

ヲ多捕心持思慮分別ナクミテ

自然萌頭、當鎗お双方禁ル所ヲ

免し何し之無差別自證位

自然萌頭、當鑑於双方禁於明
免之何し之無差別自證位

但し薙刀大刀合面具且着之昔古鑑
ト云名無之末世為教導入身手段
ノ加へ可為教亦ト云

入身とは心ヲ入る事ヲ入る事
第一に任せて入る事

長刀合之事

双方長刀合切突何しノ無差別禁
可ト免之懸引無量心應用可得
自在我ヲ知ル事不我人ヲ知テ自
然之術與成位

但し双方面具且也切先キ之ホ皮包スル也

三十二構之事

上段 下段 中段 腰上段

腰下段 密身 空上段 後上段

上段被り 中段被り 捨下段 西段

眼下段 密身 空上段 後上段

上段被り 中段被り 捨下段 西段

來迎 圓身 手鏡 前立

脇面 折甲 情念 行身

天形 身秘 星念 普心

前目附 返刀 向身 居攝

燕外 伏戸 後目附 夢枕

念流長刀 執行之術 負ル所ト

不勝所シ知ルへシ是ヲ知レハ則テ

勝可ク知ル也 負ル所トハ即勝ツ

トコロナリ 不勝所トハ則負所也

其負ル所已マリ其不勝所ハ欲有リ

孫子曰知彼知已百戰不殆不知彼

而知已一勝一負不知彼不知已每

戰心敗妄リ勝ント欲スル者ハ

而知已一勝一負不知彼不知已每
戰心敗妄リ、勝ント欲スル者ハ
其負ル所ヲ不知カ故ナリ負ル所
ヲ勝ント欲スル者勝所ヲ知カ故
ナリ故我不勝ハ不負我不負
勝事ナシ十分ノ負ニ十分ノ勝
アリ十分ノ勝ニ十分ノ負在故ニ
其負ル所ヲ知負テ其勝所ヲ
知ハ術ノ功達ナリ我事理ヲ
謹ミ彼力理ヲ察テ變動無常
因歆轉化スヘシ劍心不異得心
應手而千變萬化在吾門之人
其思諸

念流元祖相馬四郎義元入道
十八世傳來

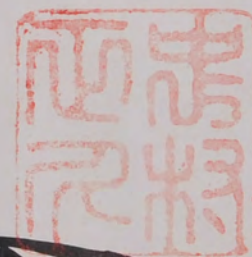
樋口十郎兵衛

十八世傳來

樋口十郎兵衛

源定伊

中村喜右衛門



文久三癸亥年九月吉日正久

久

梅田玄之郎氏

